

少年水産教室

(定置網体験学習)

金城 宏

平成10年度の少年水産教室は、宜野座村漁協、宜野座中学校、漁協青壮年部の協力を得て、平成10年8月4日に実施した。宜野座村漁協の荷捌に午前9時集合、参加者、男女生徒39名、学校側から6名、まず始めに沖縄県青年漁業士、島袋博幸氏から定置網の仕組み等について説明を受け、湾内やや時化のなかで定置網漁船に普及職員を含め47名乗船、約1キロ離れた定置網敷設場所で網を引き揚げる。メアジ（ガツン）、グルクマー、アオリイカなどが水しぶきをあげ、船上は興奮状態に。それまで船酔い気味だった生徒達も歓喜を上げ、交代でタモなどですくいあげた。その日の水揚げは約100キロ、地元沖合で「ウミンチュウ体験」に挑戦し、楽しんだほか、海上から漢那の海岸などを見学、いまだ残る豊かな自然を眺め、午後12時30分に入港、マグロ解体ショーが催され、獲った魚のフライ、サシミ、みそ汁に舌鼓を打ちながらの昼食、そして上間照子先生のあいさつ、「先生は40年余り生きてきたが、今日の体験は始めてで感動した。君達はこの貴重な体験は一生忘れない思い出となることでしょう。」閉会后、漁協青壮年と懇親会を行い成功裡に終了した。



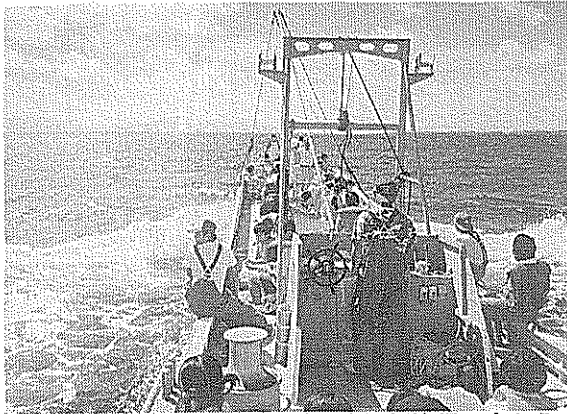
宜野座村漁協の荷捌に午前9時集合。乗船に向けての注意を受ける。



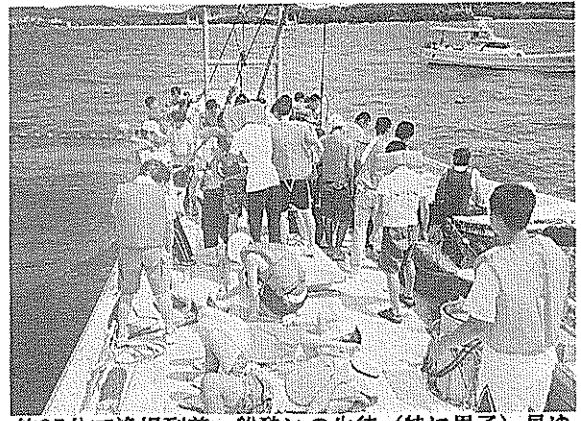
島袋博幸青壮年部長（県漁業士）から定置網の仕組み等について説明。



定置網漁船に乗船



「おいらの船は300トン」を歌い定置網漁場へ向かう。



約25分で漁場到着。船酔いの生徒（特に男子）見ゆ



網を引きよせる。さて、どんな魚が入網しているのか。



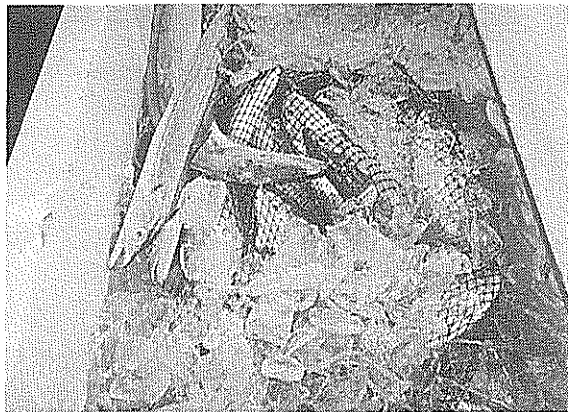
生徒達が手繰る袋網。
船上は興奮状態に、船酔い気味だった生徒達も歓喜。



交代でタモですくいあげる。水しぶきでぬれる生徒



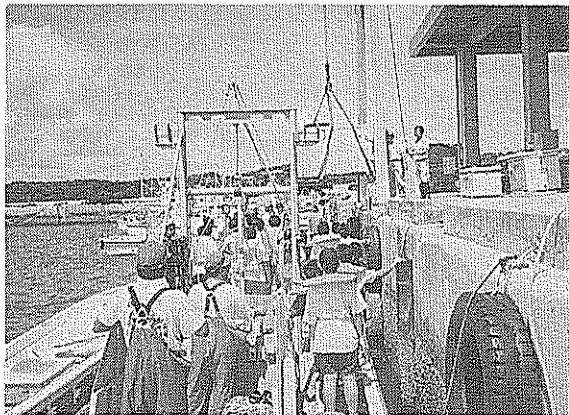
ガツン（メアジ）、グルクマー、アオリイカ等がすくいあげられる。



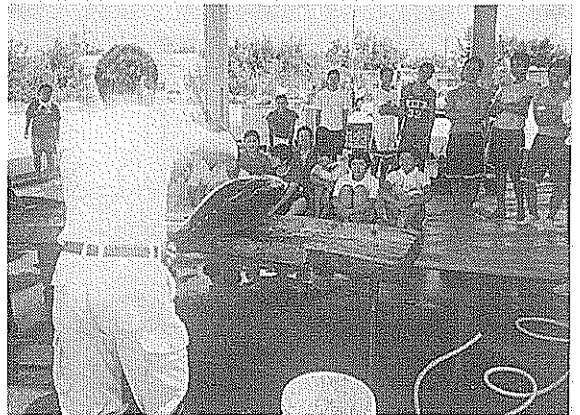
刀ににているので、刀魚（タチウオ）という魚も入網している。



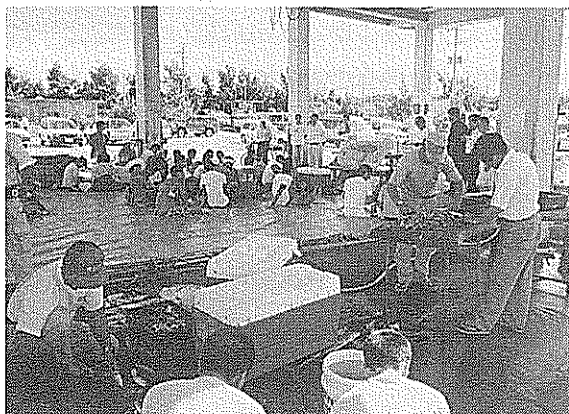
地元沖合での「ウミンチュウ体験」終了、海上からいまだ残る宜野座の豊かな自然を眺め帰路に向かう。



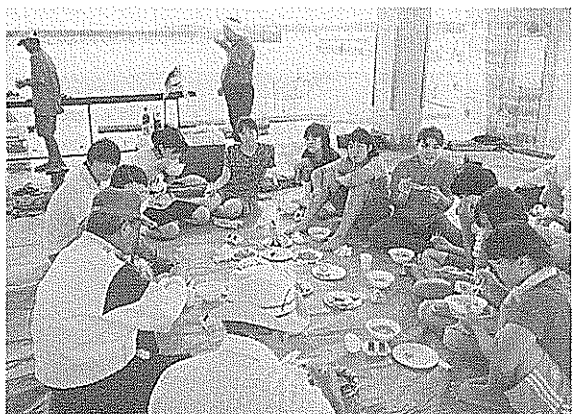
午後12時30分帰港。人員確認。



宜野座村漁協職員によるマグロの解体ショー



とってきた魚の種類を説明。片わらでとった魚を料理する漁協青壮年部のお兄さん達。



女子生徒と先生が座をなし、とった魚のフライ、サシミ、みそ汁に舌鼓を打ちながらの昼食、初めての体験できつつあったが感動した。成人したら漁村のお嫁にいこうかなあ。